

「紫綬受章」自然科学系11氏の業績

政府は3日(文化の日)、秋の褒章受章者を発令した。学術研究関連では天文学の家正則氏、植物栄養学の西澤直子氏など24人が紫綬褒章を受章、うち11人が自然科学系。伝達式は15日に東京・一ツ橋の如水会館で行われる。

■西尾章治郎氏(60歳、大阪大)を開発して医薬品合成や各種アミ学教授)は、情報科学の分野において、特に大量データの蓄積・共用、有効活用に関わるデータ工学について研究し、新たなデータベースモデルを確立した。

■家正則氏(62歳、国立天文台)は、天文学の分野において、望遠鏡の要となる独自技術を開発して129億光年かなたに人類が見た最も遠い銀河を発見した。

■丸岡啓二氏(58歳、京都大)は、有機合成化学の分野において、環境調和型のキラル相間移動触媒や、さらに高活性な触媒

■石川正俊氏(57歳、東京大)は、情報システム・ロボットの分野において、センサ情報

の並列処理技術を基盤としたヒジ

秋の褒章

フィードバックによる超高速ロボットハンドなどの新技術を開発した。

■小柳光正氏(64歳、東北大学)は、半導体電子工学の分野において、コンピュータの主記憶として用いられるDRAMで三次元スタックドキャパシタ型メモリセルや三次元集積回路(3DL SI)を開発した。

■辻省次氏(60歳、東京大学)は、神経科学の分野において、神経変性疾患の病因を分子レベルで研究し、特に遺伝性神経疾患であるポリグルタミン病の病因遺伝子を発見、病態を解明した。

■岸本健雄氏(64歳、東京工業大学)は、細胞生物学の分野において、MPF(卵成熟促進因子・M期促進因子)の発見を基に、卵細胞の成熟・減数分裂・受精過程における細胞周期制御の分子機構とそれに至るシグナル伝達経路を解明した。

■西澤直子氏(66歳、東京大学)は、植物栄養学の分野において、イネ科植物の鉄吸収の研究でムギネ酸の全合成過程を分子レベルで明らかにすると共に、植物の鉄獲得機構に関わるトランスポーターを発見し、鉄栄養制御のメカニズムを解明した。

■内海英雄氏(64歳、九州大学)は、物理系薬学の分野において、生体の恒常性維持に関わるレドックス代謝(生体内の酸化還元反応)を解析する手法を研究し、生体磁気共鳴画像化装置を開発し、レドックス代謝検出薬と組み合わせた生体レドックス解析法(スピンプローブ法)を確立した。

■清野進氏(63歳、神戸大学)は、糖尿病・代謝学の分野において、分子レベルでのインスリン分泌機構の解明や、新たなインスリン分泌増強メカニズムの発見に成功した。